

女子野球の第三回ワールドカップ(W杯)に道内チーム所属でただ一人出場し、世界一に輝いた。「副主将で五番打者と、すごい重圧だった。優勝した瞬間はほっとする気持ちしかなく、涙は後に

仲間と騒いでいる時に「道内」と振り返る。「男子並みの打球の速さ」(道内野球関係者)と評される力強いスイングが持ち味。八月下旬に愛媛県で行われた同大会は自身六度目の国際大会

だった。予選から六試合すべてに先発し、打率は四割超、一塁の守備でもベストナインに相当する「オールスター賞」に輝く活躍を見せた。

別加盟し、ゲームの相手は男子中学生だ。「硬式は怖いというイメージがあるのか、なかなかチームが増えてくれない」。道内で女子の硬式大会を開くのが夢だ。



金子 由起子 さん

留萌管内天塩町生まれ。兄の影響で小学四年から野球を始めた。現在は、四年前に仲間とつくった道内初の女子硬式チーム、ホーネット・レディーズ(札幌)でプレーする。

道内の女子硬式チームは一つしかなく、普段は中学硬式野球リーグに特

(佐藤大吾)